

2012年3月期

決算説明会

Jトラスト株式会社
2012年5月21日

1. 2012年3月期連結決算概要と、 2013年3月期連結業績の見通し

代表取締役副社長 千葉 信育

2. 今後の事業成長に向けた戦略と取り組み

代表取締役社長 藤澤 信義

3. 質疑応答

■免責事項

本資料に記載されている、業績見通し、戦略、方針等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提（仮定）に基づいており、業績、戦略、方針等は様々な要因により異なる可能性があります。特に経済動向や事業環境、法律の変更や為替の変動などには、潜在的なリスクや不確実性が含まれており、業績、戦略、方針等が大きく異なる可能性があります。

2012年3月期連結決算について

M & Aの展開は連結決算に大きく貢献

2011年4月

- 韓国消費者金融会社ネオラインクレジット貸付を子会社化

2011年8月

- 楽天(株)よりK Cカードの株式を取得し子会社化

2012年3月

- 消費者金融No. 1であった武富士を会社分割でロプロが承継

Point

■ 営業収益・営業利益共に過去最高益を達成

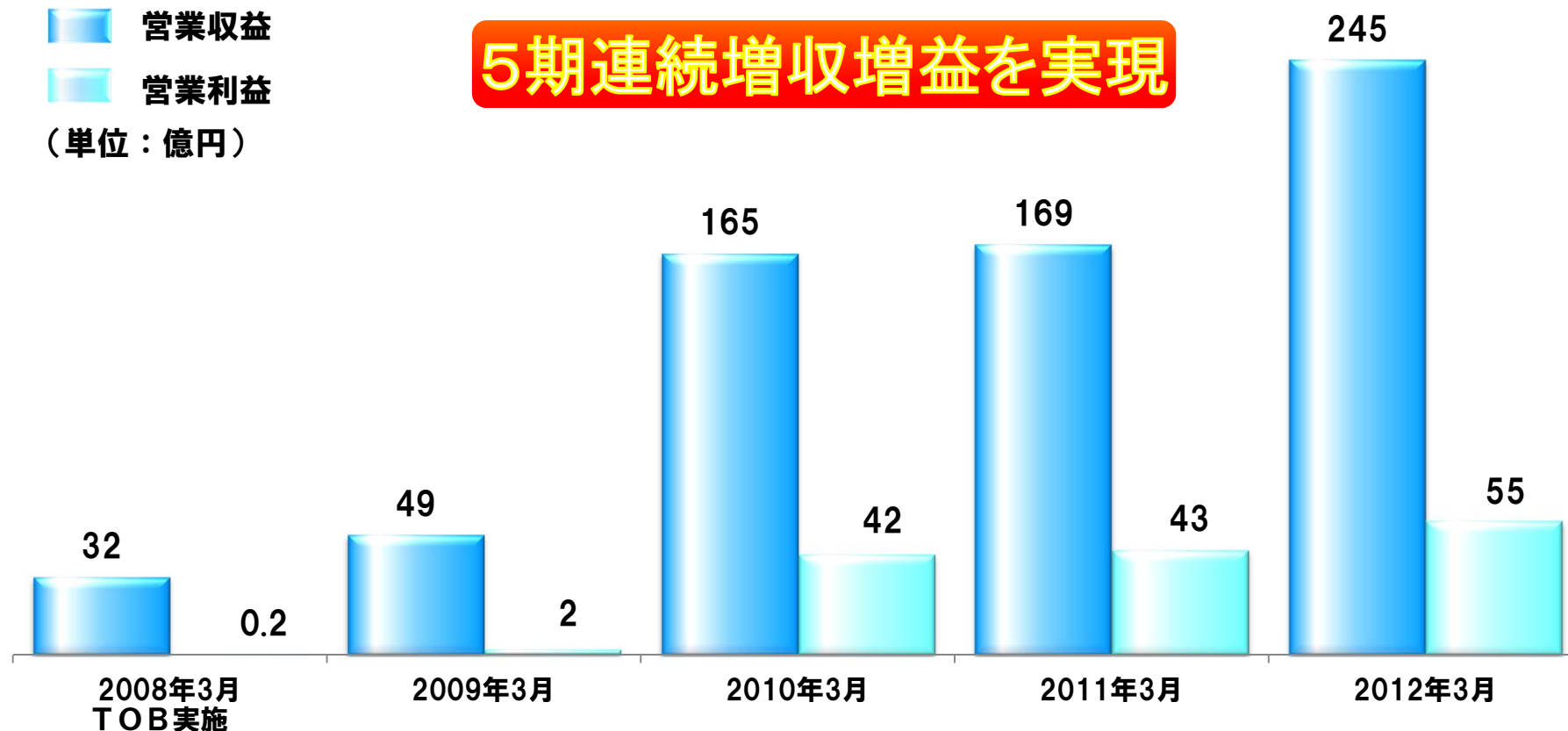
➤ 営業収益	245億円	(前期比 +45%)
➤ 営業利益	55億円	(前期比 +28%)

営業収益

営業利益

(単位：億円)

5期連続増収増益を実現



Point

■ 当期純利益は負ののれん発生益294億円により過去最高益を達成

- 当期純利益 345億円 (前期比 10倍)
- のれんを除いても過去最高益を実現 (32億円→51億円)

(単位：億円)

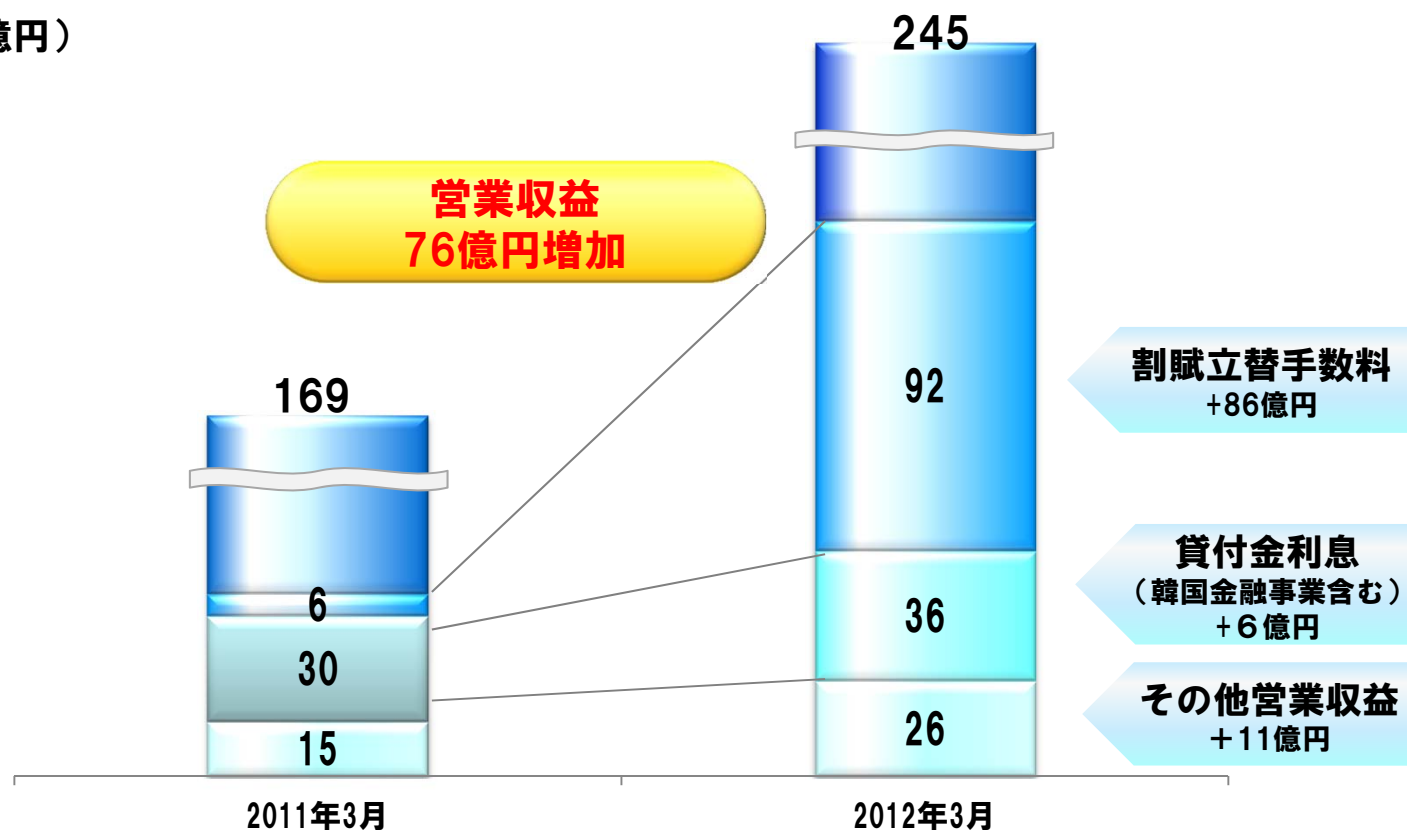
5期連続黒字を達成



Point

- K Cカードの貢献で割賦立替手数料が86億円増加
- ネオラインクレジット貸付の貢献で貸付金利息が6億円増加
- その他営業収益（保証料収入等）が11億円増加

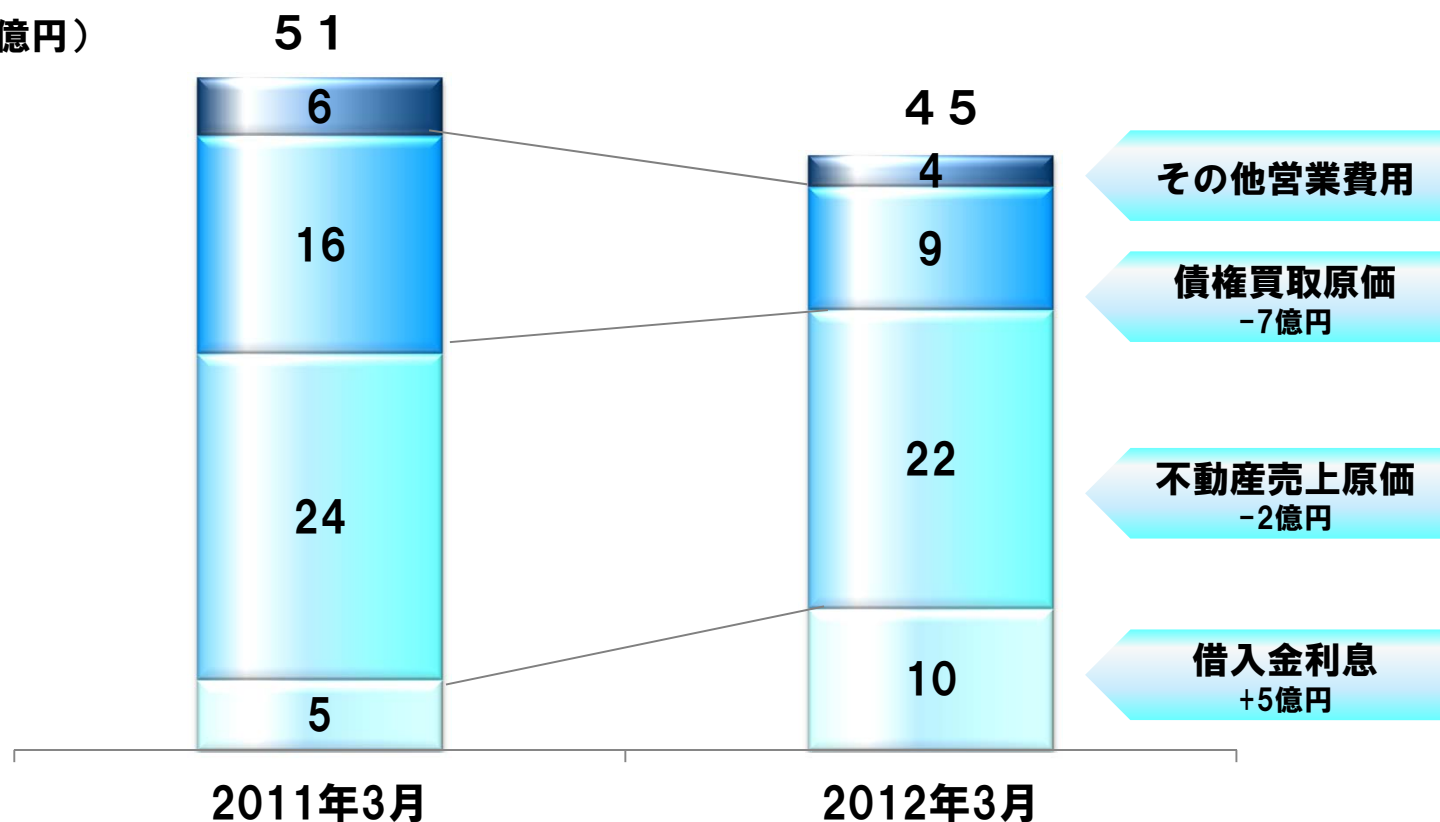
（単位：億円）



Point

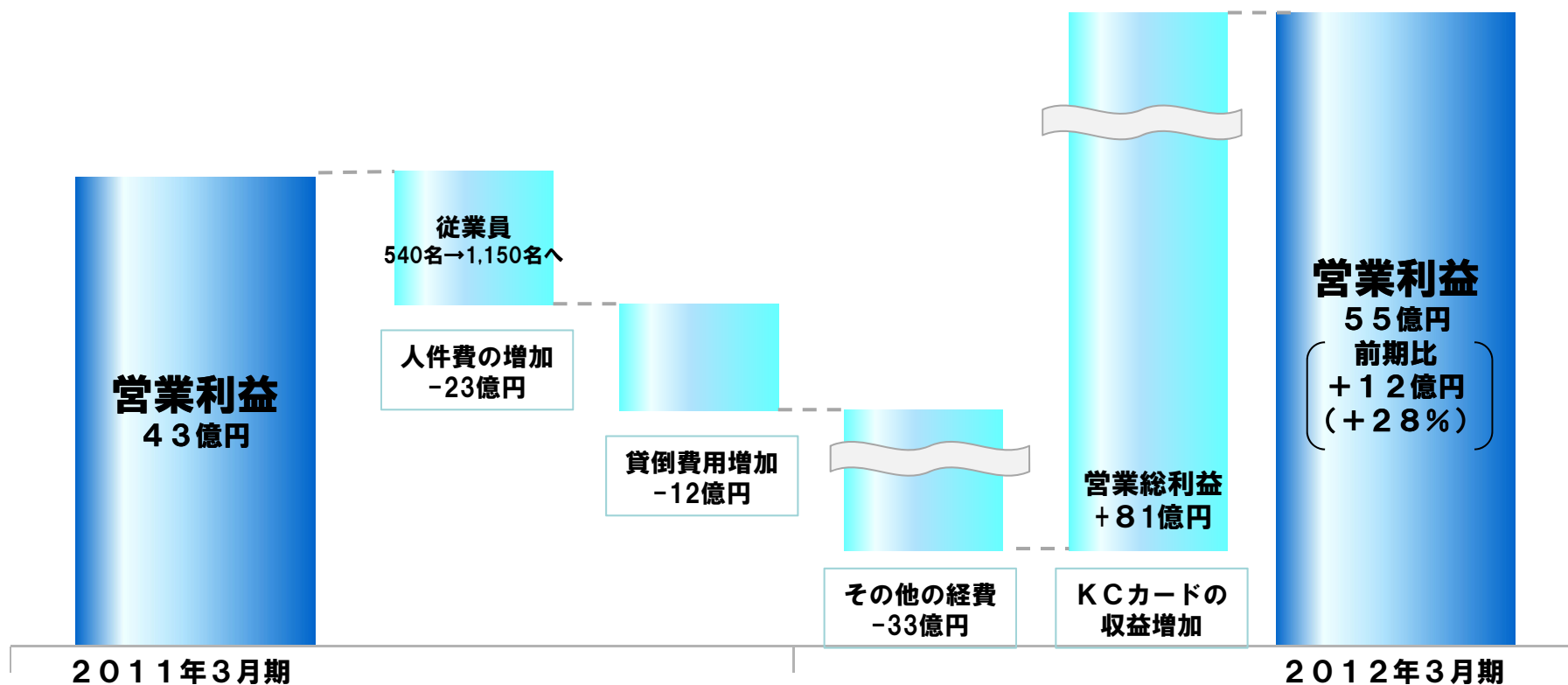
- 営業費用はM & Aにより借入金利息が増加するも、震災の影響で不動産取引が低迷し51億円から45億円へ6億円減少

(単位：億円)



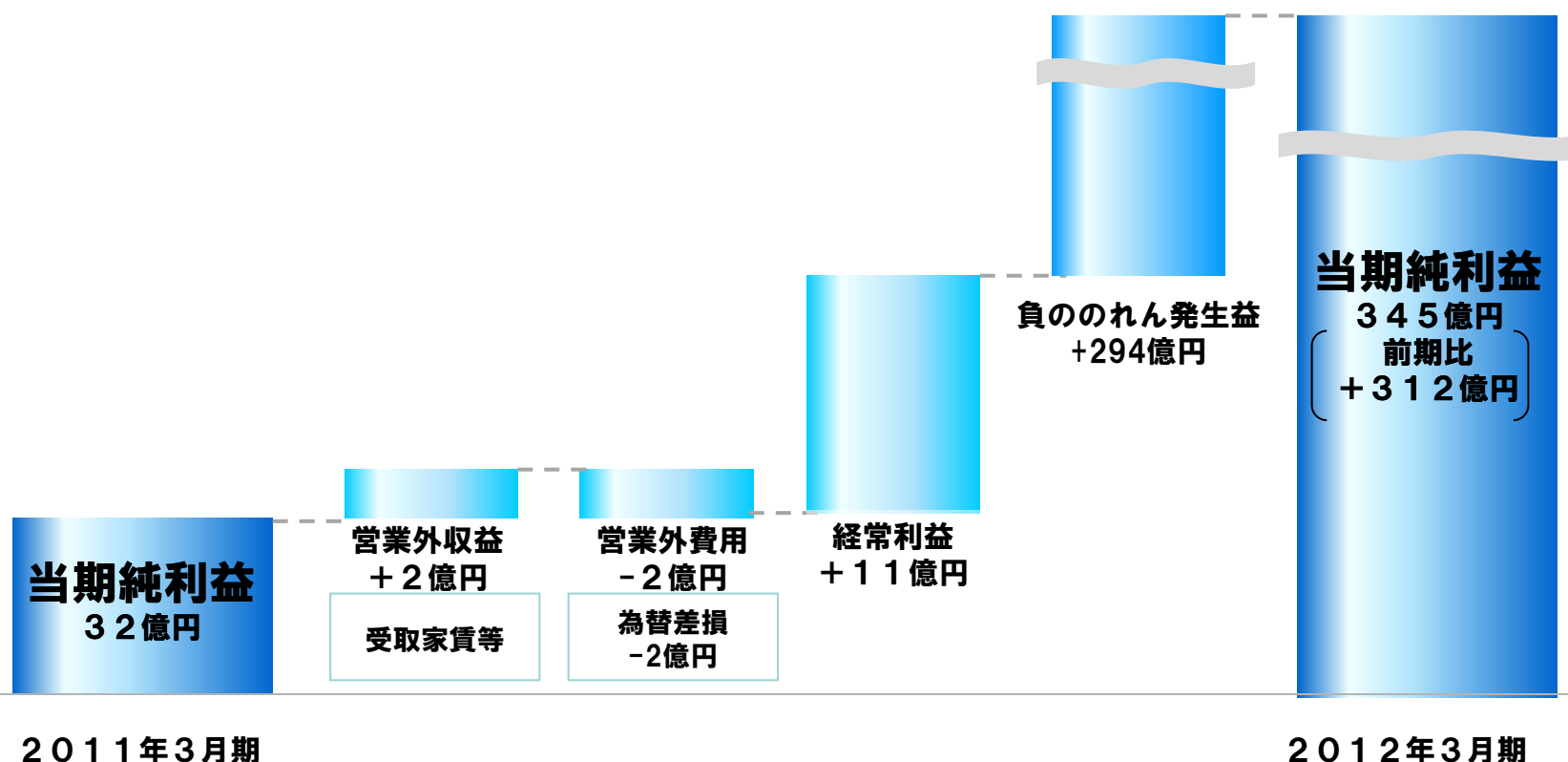
Point

- グループ規模の拡大で販管費は増加
- K Cカードの貢献で営業利益は43億円から55億円と過去最高益を達成



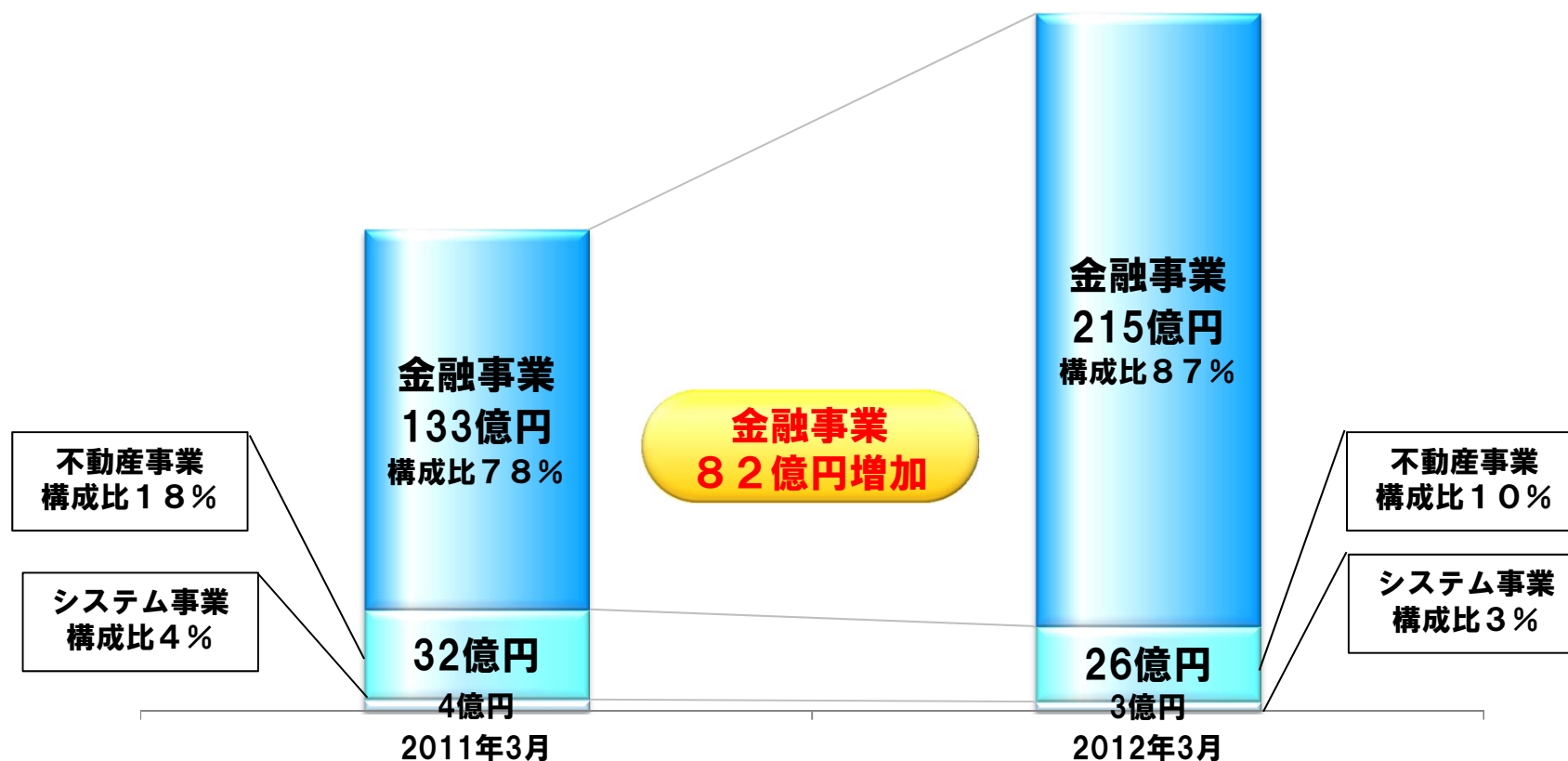
Point

- K Cカードの負ののれん発生益により、当期純利益は345億円と過去最高益を達成



Point

- 金融事業は海外事業とクレジット事業の加算で 87% の構成比へ
- 不動産事業は東日本大震災の影響で 10% の構成比へ



Point

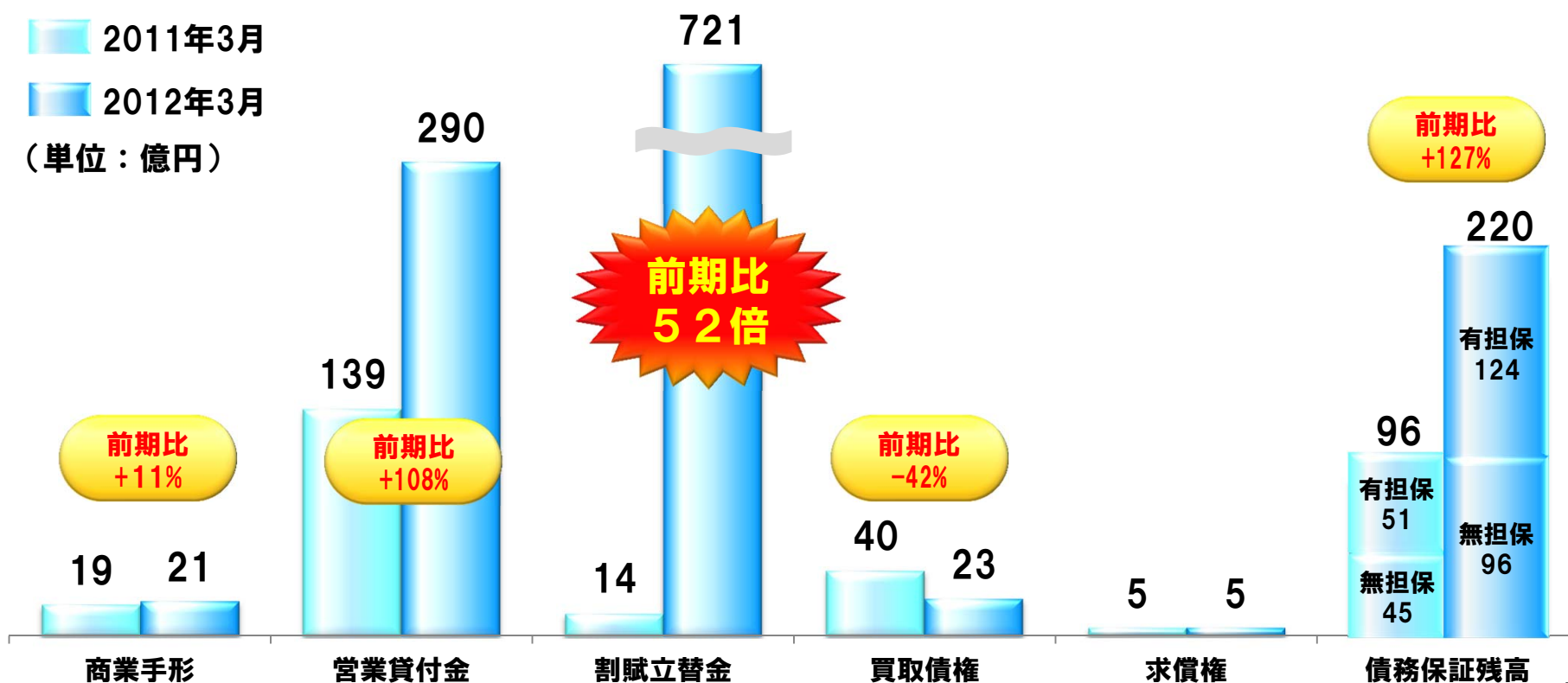
- K Cカードにより割賦立替手数料が前期比で1.5倍の86億円増加
- 国内の貸付金利息が減少するも、韓国の貸付利息が貢献し、前期比2.3%増加



金融事業の商品別残高内訳

Point

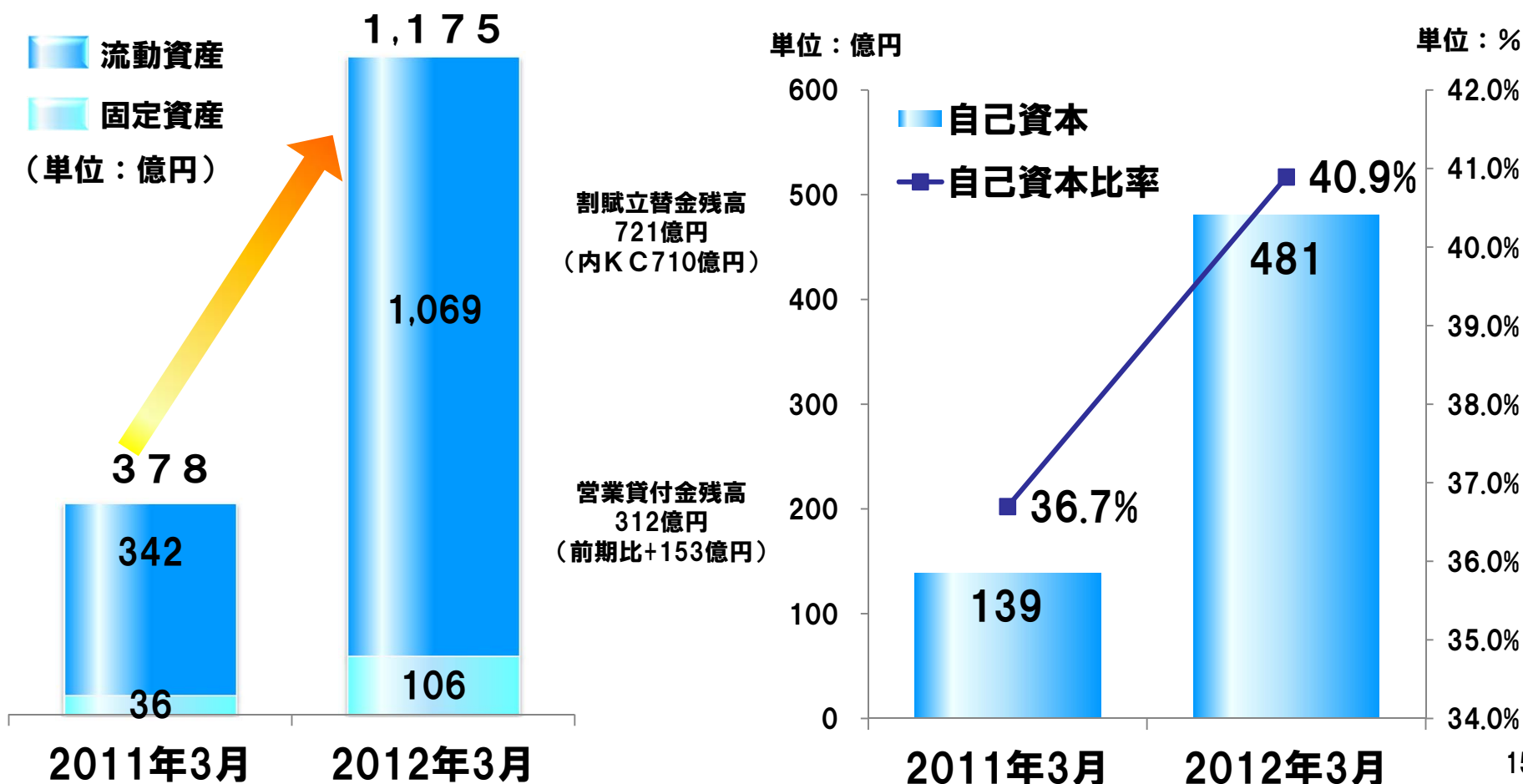
- K Cカードのグループ入りで割賦立替金は721億円へ増加
- 営業貸付金は国内238億円・海外52億円の290億円へ倍増
- 顧客基盤の活用により債務保証残高は220億円へ増加



総資産の状況

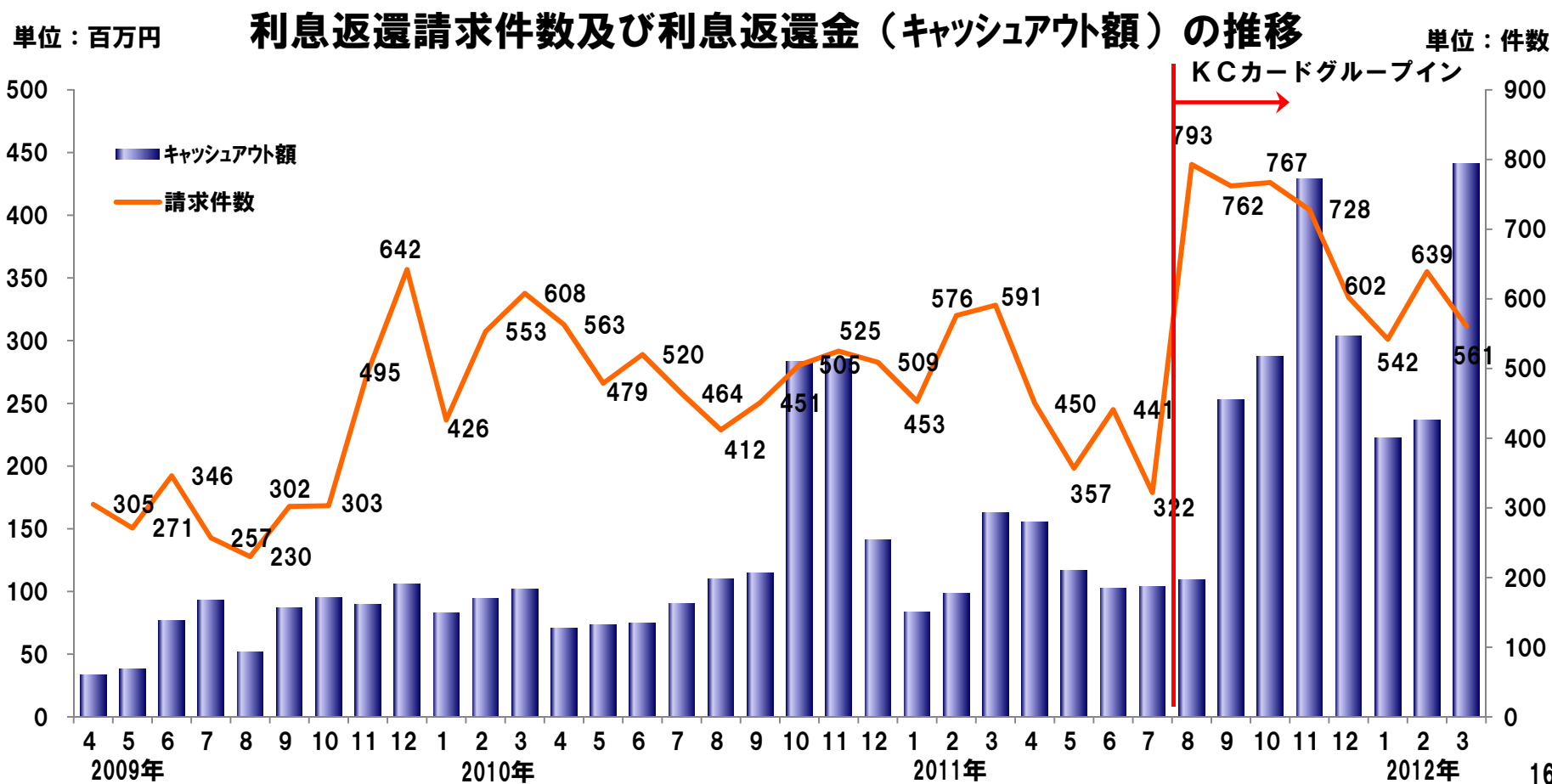
Point

- 連結総資産は378億円から1,175億円へ増加
- 自己資本比率は36.7%から40.9%へ上昇



Point

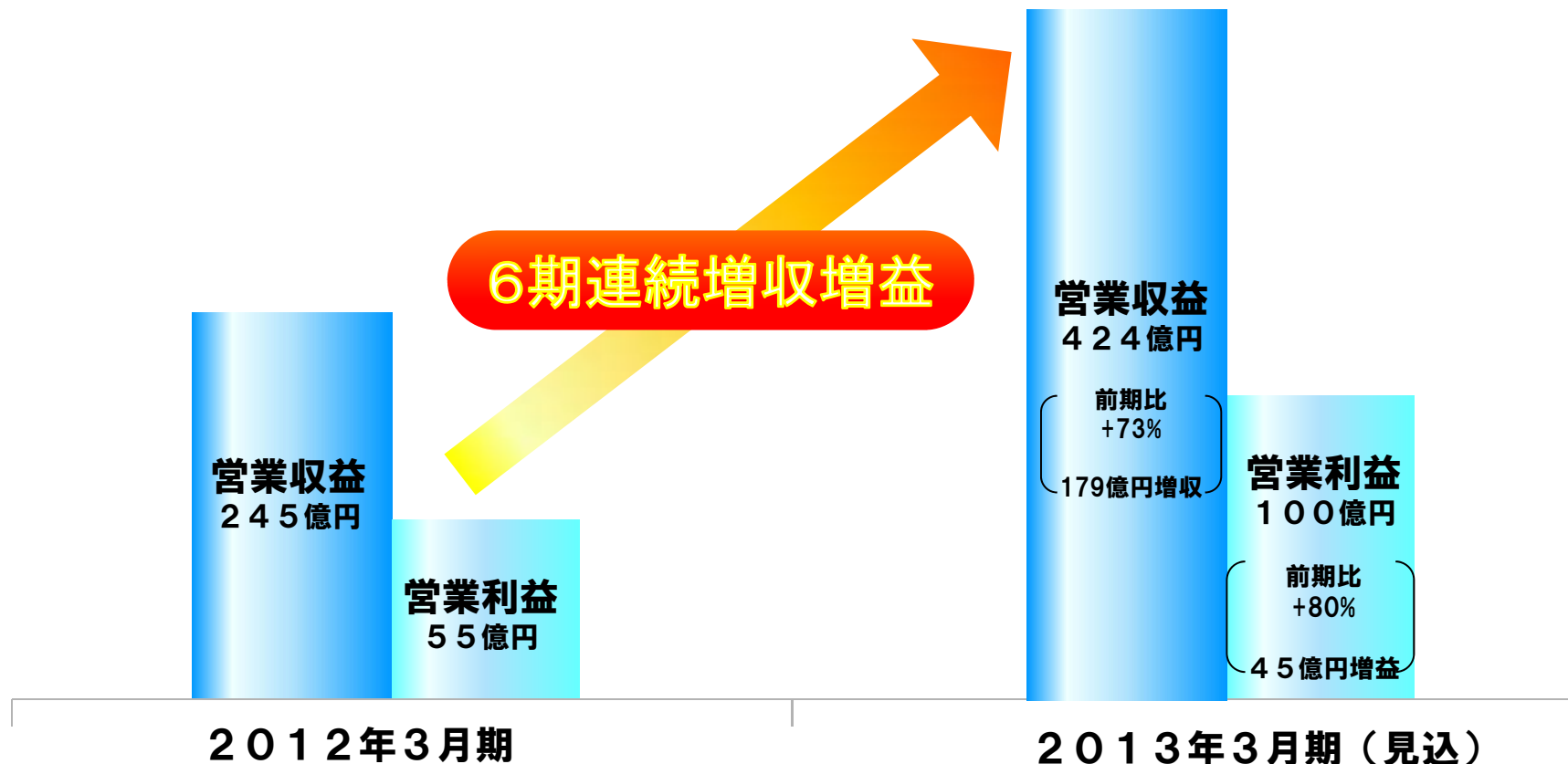
➤ 2011年10月以降利息返還請求件数は減少傾向へ



2013年3月期連結業績の見通し

Point

- 営業収益は424億円・営業利益は100億円となる見込
- 6期連続の増収増益を実現見込



Point

- 当期純利益は100億円を達成する見込み

(単位：億円)

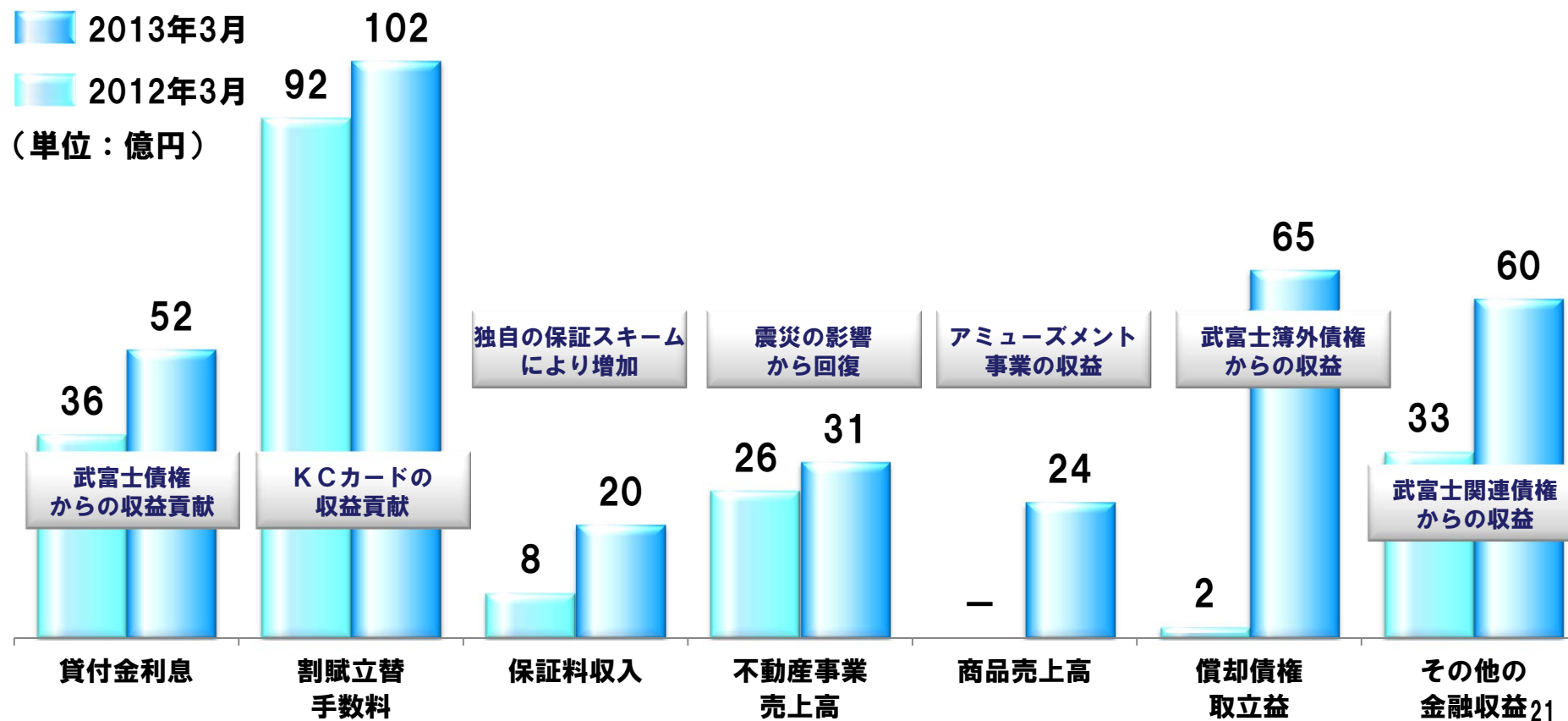


- **KCカードのクレジットカード事業収益が通期で寄与**
- **武富士の事業収益（貸付金利息・償却債権取立益・その他金融収益）が通期で寄与**
- **KCカードおよび武富士の顧客基盤を活用した「信用保証事業」が寄与**
- **アミューズメント商品売上高が寄与**

連結業績見通し① 営業収益

Point

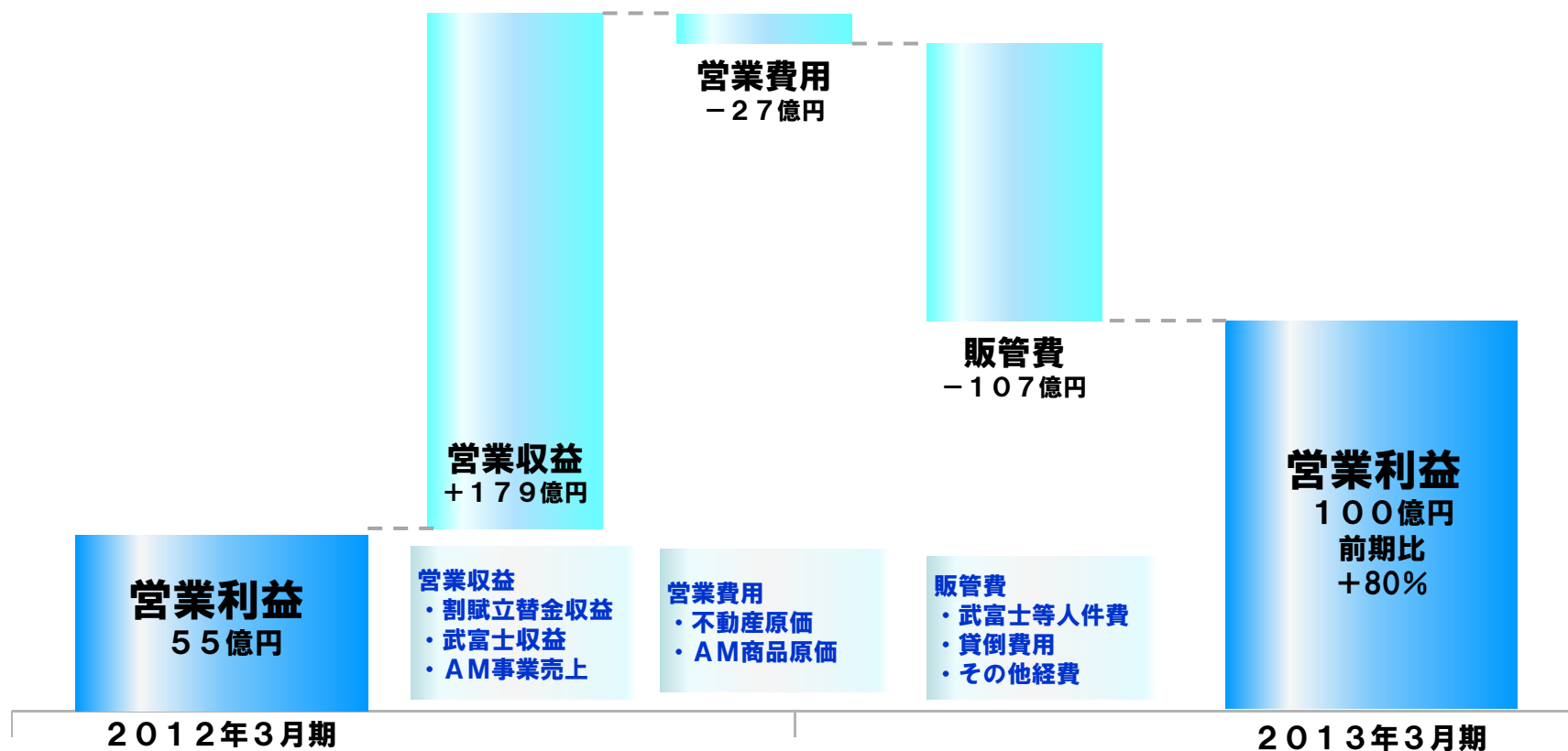
- 営業収益は前期比 1 7 9 億円増加の 4 2 4 億円を達成見込
(前期比 7 3 % 増)
- 武富士・K C カードがフル貢献で営業収益大幅増加



連結業績見通し② 営業利益

Point

- 事業拡大に伴い、営業費用及び販管費は増加
- 営業収益増加により、営業利益は前年比80%増加の100億円となる見通し



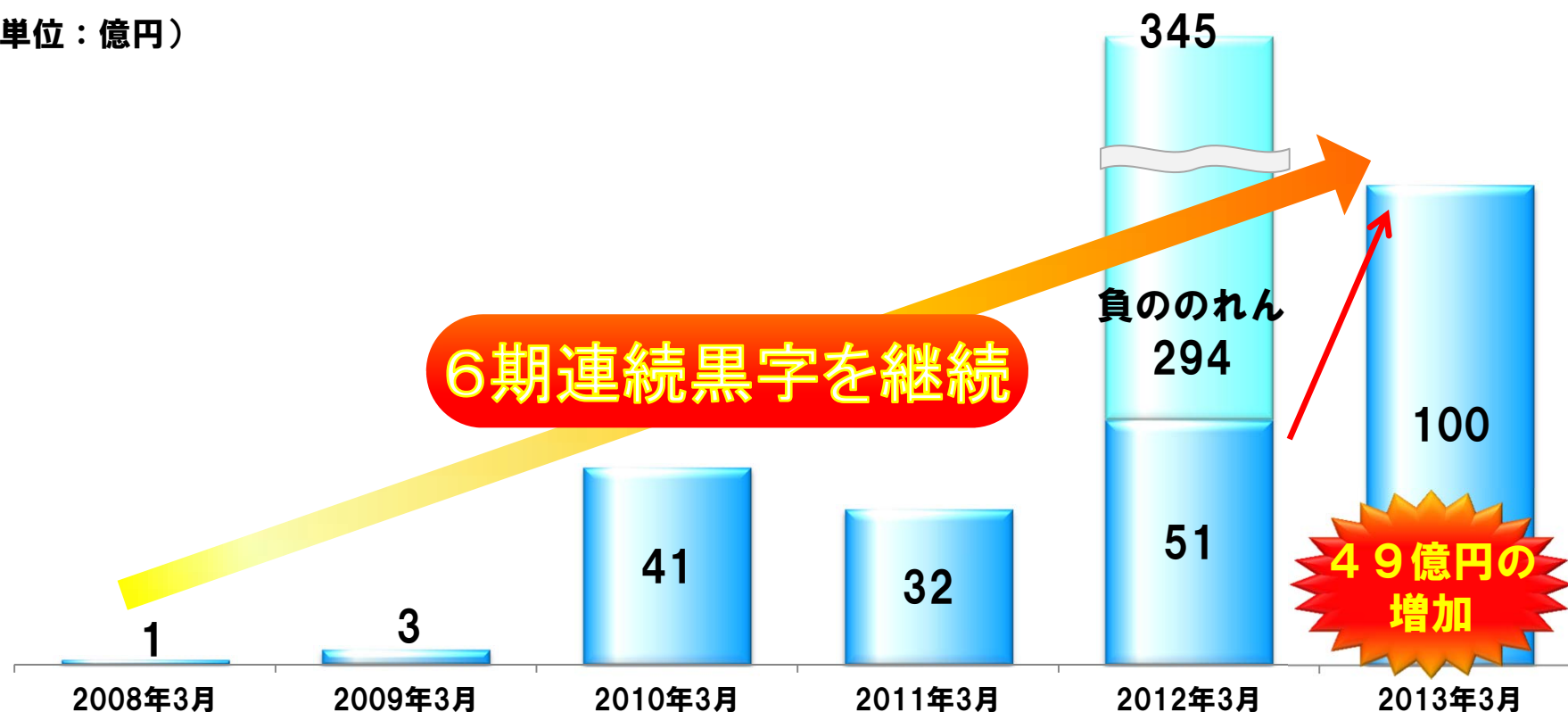
※AM=アミューズメント事業

連結業績見通し③ 当期純利益

Point

- 当期純利益はK Cカード負ののれん発生益の影響により減益となるも100億円を達成見込み
- 負ののれん発生益を除き51億円から100億円の増益を実現

(単位：億円)



今後の事業成長に向けた戦略と取り組み

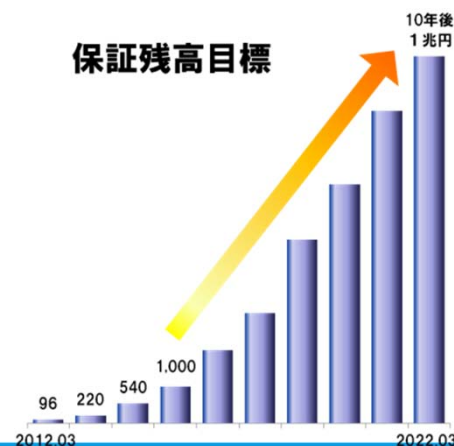
代表取締役社長 藤澤 信義

今後の事業成長に向けた取り組み

今後の事業成長に向けた戦略

● 今後の事業成長に向けた取り組み

信用保証事業への積極的な取り組み



- 今後の事業成長に向けた取り組み

武富士ブランドを活用した貸付事業への取り組み



● 今後の事業成長に向けた取り組み

クレジットカード会員の獲得への取り組み



- **今後の事業成長に向けた戦略**

株 価 対 策 ・ 資 本 政 策

- **今後の事業成長に向けた戦略**

M & A 戦略のさらなる展開

ご清聴有難う御座いました